

スペインの征服活動

スペインは、先住アメリカ人による【1: 】を破壊、征服した。これらの文明の系譜と詳細についてはNo.36で述べたが、ここでも簡単に復習しつつ、スペイン人の征服活動について述べる。【5】の共通点は【2: 】の栽培を基盤とし、石造建造物を遺し、馬や車輪を知らなかったことである。

- 1) メキシコ湾岸地方に、BC1200年頃からBC400年頃まで【3: 】が栄えた。絵文字が使用された都市文明。巨石人頭像が印象的で、出題例もある。教科書、図説資料本などで見ておくこと。メソアメリカ最古の文明で、後掲(2)(3)に大きな影響を与えた。スペイン人来航時には既に滅亡していた。
- 2) ユカタン半島(図1のイ)に、6世紀～14世紀(10～13世紀が最盛期)、【4: 】が栄えた。階段ピラミッド、チチェンイツツアの天文台、マヤ文字(絵文字、一部が最近解読された)などで知られるこの文明は、とうに最盛期はすぎ、衰退してはいたが16世紀に至っても存在していた。これをスペイン人が滅ぼしたが、後掲(2)(3)と異なり詳細は不明である。
- 3) メキシコ高原(図1のロ)の文明
 - ①「太陽のピラミッド」で名高い【5: 】(図1のa)はBC2世紀からAD6世紀まで存続。これに引き続き【6: 】がAD6世紀から10世紀まで存続し、メキシコ中央高原を支配したとされる(途中省略、詳しくはNo.36)。スペイン人来航時には既に滅亡していた。
 - ②15世紀にアステカ族は征服活動により【7: 】を建国した。アステカ文字は解読された。都は【8: 】(図1のb)。1519年、アステカ王国の君主【9: 】はスペインの【10: 】1485-1547をケツァルコアトル神の使い(もしくは神そのもの)と信じて歓待したが、同年中に宣戦。1521年、【10】は首都テノチティトランを攻略し、アステカ王国を滅ぼし、ノヴァ=イスマニア州(スペインの海外州)を建設した。彼は3カ月の包囲戦を勇敢に戦った最後の国王クワウテモックを捕らえ、黄金の場所をつきとめるために拷問した末、1525年、絞首刑に処した。
- 3) アンデス高地(図1のハ)の諸文明は、チャビン文化を起源とする。地上絵で名高いナスカ文化(図1のe)、「太陽の門」で知られるティアワナコ文明などが先行し、【11: 】が15世紀初頭までに【12: 】を建国した。「インカ」とは「太陽の子」の意味。皇帝は「サバ=インカ」、太陽神の化身。16世紀はじめクスコとキトの両勢力に分裂し弱体化したところへ、1533年、スペインの【13: 】1470?-1541が来襲し実質最後の皇帝【14: 】を殺害し、インカ帝国を滅ぼした。【13】は都のクスコ(図1のd)を1533年に破壊し、海岸部にリマを建設し首都とした(現在もペルーの首都)。文字はなかったが【15: 】の色(内容)と結び方(数量)で記録。精緻で堅牢な石造建築が発達した。図1のcは標高2500mの城塞都市【16: 】。これは、発見当初言われていたような「スペイン人によって追い詰められた最後の砦」ではなく、王の避暑地とする説が近年有力である。アステカ王国とインカ帝国は共通点が多いが、たがいにその存在を知らなかったと思われる。
- 4) マヤ・アステカ・インカ文明を滅亡させ、インディオを酷使した! 実行者たちを【17: 】(征服者)と呼ぶ。アステカ・インカを滅ぼしたのはコルテス・ピサロであり、日本語文字列だと文字数が4文字・3文字で偶然一致する。
- 5) 知っていそうで知らない人が多い、インカ帝国後日伝。②は出題されたことがある。
 - ①インカ帝国の実質最後の皇帝アタワルパは、金銀の提供と交換に釈放を要求したが、ピサロは約束を破り、最終的に絞首刑に。皇帝の位は、傀儡皇帝トゥパク=ワルパに継承され、その後アタワルパの別の弟であるマンコ=インカ=ユパンキに継承された。彼は、スペインの傀儡として利用されることを拒否し、1536年、都を出てウルバンバ川の奥地ビルカバンバに「新インカ帝国」と呼ぶべき勢力を立ち上げ、スペインに抵抗した。マンコ=インカ=ユパンキの子、トゥパク=アマル(即位1571年)の時、1572年4月にスペイン軍の来襲によって「新インカ帝国」は35年にして滅亡した。トゥパク=アマルは捕らえられ、激しく拷問された。抵抗のために蓄えた莫大な金銀の所在はどこか、と。彼は何も語らず、1572年9月24日にクスコで斬首された。その金銀の実在性は今も不明。処刑の時、トゥパク=アマルが処刑台に登り、執行人が刀を取り出したとき、見守る先住民全衆衆が悲しみの叫び声を挙げて涙を流した。この様子に、トゥパク=アマルは右手をさっと挙げて人びとを静まらせた。その毅然とした態度に、群衆は一瞬で静まりかえった。トゥパク=アマルは死を目前にしたものとは思えない立派な態度で群衆に対してケチュア語で話し始めたと言われている。
 - ②それから約200年を経た1780年、スペインの植民地とされたアンデス高原一帯でトゥパク=アマル2世を自称する指導者に率いられた先住民による反スペインの大反乱が起きた。いや、「2世」をつける必要はないという説もある。
 - ③更にその約200年後、1996年、ペルーの日本大使公邸で天皇誕生日祝賀のパーティー(招待客2,000人)の最中、MRTA(トゥパク=アマル革命運動)のコマンドが公邸を占拠、世界中の目を釘付けにした。彼らはトゥパク=アマルの血統とは無関係。人質の中には24人の日本人もいた。126日間に及ぶ人質籠城事件となったが、1997年4月23日(日本時間)、ペルー軍・警察は公邸に突入し、MRTAのメンバー14名全員を射殺し、軍側に2名、人質にも1名の死者を出した。この事件の背景には、現代のペルーにおける深刻な格差と貧困の問題が横たわっている。突入の決断をしたのは、皮肉にも日系人大統領のアルベルト=フジモリ(日本国籍も持つ)だった。なお、突入があったら日本人の人質を射殺するように命じられていた日本人人質担当の少年兵は、引き金を引くことができなかった。彼は、現場で射殺された。フジモリ大統領は2000年に失脚。日本への実質的な亡命から7年、2007年9月23日(日本時間)チリ政府からペルー政府に引き渡され、リマに到着した。軍特殊部隊による市民殺害などの人権侵害、汚職など7つの容疑を背負っての帰国である。2011年、ペルーの憲法裁判所は、軍による民間人殺人の罪で禁錮25年の判決を下している。
 - ④フォルクローレの名曲『コンドルは飛んでいく』(El Condor Pasa)はペルーで20世紀初頭に創作された民族的歌劇(インカ帝国滅亡も内容の一部)のために作曲され、歌詞はなかった。後に創られた歌詞は多様で興味深いのが割愛する。1970年のサイモン&ガーファネルの新しい英語の歌詞によるカバーで世界中に知れ渡ったが、その英詞はこの民族的歌劇が作られた趣旨に忠実とは言えない。

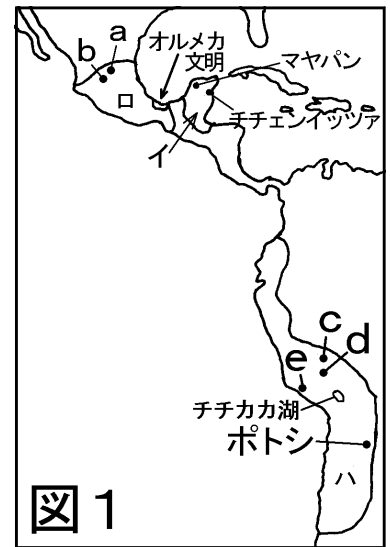


図1

スペインは南アメリカでこんなことをした

- 1) ラテンアメリカには、東南アジアのような交易ネットワークもなければ香辛料のような国際商品もなかった。スペインは先住民を酷使する鉱山（銀山）の開発やサトウキビの栽培を行って利益をあげた。1503年頃、スペイン国王は、スペイン人征服者に対し、征服地の先住民をキリスト教化させることを条件に、先住民を労働力として使役することを認めた。土地に対する支配も認めた。これを、【18: _____】という。征服者は先住民を奴隷同様に酷使した。酷使に加えてヨーロッパから持ち込まれた伝染病が免疫（抗体）を持たない先住民の間で猛威をふるった。
↑【19: _____】、麻疹（はしか）、インフルエンザ、ペスト 09M等《頻出》 全部覚えよ！
先住民の人口は、征服後約100年間で、およそ5000万人からおよそ400万人に激減した。そのため、16世紀後半にはこの制度は衰えた。
- 2) スペインのドミニコ派修道士 09W【20: _____】（1474-1566）は、かねてエンコミエンダ制下のインディオの酷使を報告、弾劾してきた。彼のたびたびの報告で、1537年には教皇パウルス3世がインディオの奴隷化を禁止する勅令「スプリムス・デウス」を出している。1542年、国王【21: _____】（神聖ローマ皇帝カール5世と同一人物）が召集したインディアス評議会に報告するために書かれたのが『インディアスの破壊についての簡潔な報告』（1542年に書かれ52年に出版）である。インディアス評議会は討議の結果、1542年11月、インディオ保護とエンコミエンダ制の段階的廃止をうたった画期的な「インディアス新法」を公布した。これによって、インディオを奴隷にすることは禁止されたが、結果的に黒人奴隷の「輸入」が促進された。ラス=カサスは先住民を救うためには黒人を奴隷として導入することもやむを得ないと考えていたが、後には誤りだったと認めている。なお、彼が何派の修道士かという問題は意外と《頻出》である。
- 3) 17前半から18世紀にかけて、黒人奴隷や負債を負った農民（ペオン）を主な労働力とする【22: _____】（大農園制）に移行した。大土地所有にもとづく農園経営が広がり、ペオンを使役して大規模な農業や牧畜を展開した。17世紀半ばから銀の生産は減少に向かい、交易が衰えると、アシエンダ制はいっそう拡大した。
- 4) 誇り高き先住民は、しばしば激しく反抗した。その最大のもは、前掲の1780年の【23: _____】である。トゥパク=アマル2世を名乗る指導者（実名はホセ=ガブリエル=コンドルカンキ、トゥパク=アマルと血縁はない）に率いられたアンデス高原一帯の先住民による反スペインの反乱である。鎮圧されたが、独立運動に大きな影響を与えた。

価格革命

- 1) 1545年に、【24: _____】（現ボリビア 07J）が開発され、製錬技術の進歩もあって莫大な銀を生産した。ヨーロッパに運ばれた銀の多くは、この銀山のものである。図1で位置をチェックせよ。メキシコにも優秀な銀山が発見され、1600年ごろには年間270トンもの銀がヨーロッパに運ばれた。

その結果、物価は100年間で約3倍になった。これを【25: _____】と言う。※1



スペインは大量の銀を「銀艦隊」を組んで本国に輸送した。16世紀末以降、オランダ・イギリスの私拿捕船（しだほせん 私掠船とも言う。私掠免許状を持つ船、早く言えば海賊船）の攻撃を受け縮小した。イギリスの国家公認の私拿捕船が、この銀艦隊を襲って銀を略奪したのは史実である。キャプテン=ドレーク 1543?-96 は私拿捕船の船長として有名。彼は無敵艦隊に勝利、政治家に出世した。「パイレーツ」はカリブ海以外にも実在した！

↑「海賊旗」＝「無抵抗の者は殺さない。手向かう者は皆殺し。」の意味。18世紀以降使われた。

これとは別に、スペインは大量の銀をアカプルコから【26: _____】（ルソン島）に運び中国の陶磁器、絹織物などと交換していた。これを【27: _____】という。中国では、このルートで流入した大量の銀と日本からの銀によって、明、清代には銀による納税制度が確立した。

※1 アメリカ大陸の銀はスペインに送られ、銀貨に鋳造された。そのため銀貨が大量に出まわるようになり、銀貨の交換価値が暴落。スペインを中心として異常な物価騰貴（インフレ）が起こり、やがて商業圏の一体化が進む西ヨーロッパ全域に波及した。

- 2) そもそも、東西交易路の開通以来一貫して、香辛料、陶磁器、絹織物などアジアの物産の輸入に対してヨーロッパが輸出できるのは毛織物くらいに限られていたから、ヨーロッパ諸国のアジアに対する全体としての貿易収支は、赤字で当然である。アジアに対して輸入超過のヨーロッパは長年にわたって銀の流出が続き、貨幣としての銀が乏しい状態であった。16世紀初め以降、スペインは、アメリカ大陸から奪った、ありあまるほどの銀で、アジアやアメリカの産物を大量に購入した。産業の興隆に使うのではなく、ただ浪費した。しかし、大量の銀の流入は、スペインのみならず西ヨーロッパ全体の停滞していた経済活動に活気を与え「繁栄の16世紀」をもたらした。
 - ①大量の銀の流入によって、豊かな者は、その富を銀の形で蓄積しそれを何にでも変えることができたから、最も野心的な人々は【28: _____】に成長する条件が整った。反面、ただ金持ちであるというだけで何もしない者は貨幣価値の下落で没落した。
 - ②大量の銀の流入による価格革命の中で、固定額の貨幣地代が普及していた西ヨーロッパでは、貨幣価値の下落は【29: _____】に甚大な打撃を与え、その没落を促進し、封建社会を崩壊させる大きな要因となった。

2011 東京学芸大学

A 15世紀末のヨーロッパ人による「①大航海時代」の始まりは、世界の一体化を進めるとともに、②ヨーロッパ社会にも大きな変化をもたらした。・・・

問2 下線部②について、どのような変化がもたらされたか、次の用語を用いて、60字以内（句読点等を含む）で述べよ。

用語 銀山、物価、封建領主

正解省略